

令和6年度全国学力・学習状況調査における

結果について

■ 令和6年度全国学力・学習状況調査の概要

1. 調査の目的

- ・義務教育の機会均等等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象及び調査方式

小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査実施日

令和6年4月18日（木）

4. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（小6国語・算数、中3国語・数学）
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

■ 教科に関する調査 小学6年生 国語科

全体の概要

- ・全体的には県平均とほぼ同じでしたが、全国平均をやや下回っていました。
- ・観点別に見ると、知識・技能については、県平均、全国平均とほぼ同じでした。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均とはやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識及び技能	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題に課題が見られます。	複数の資料や考えの中から、共通点や相違点を分類したり整理したりする活動を取り入れる必要があります。また、振り返り活動等を通して学習内容をまとめる活動も継続的に行う必要があります。
思考・判断・表現	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題に課題が見られます。	物語全体を通して、複数の叙述をもとに行動や気持ちをとらえたり複数の描写を結び付けて心情の変化をとらえたりする学習活動を設定する必要があります。また、キーワードや条件を設定して文章構成をする活動を取り入れることも必要です。

■ 小学6年生 算数科

全体の概要

- ・全体的には県平均、全国平均とほぼ同じでした。
- ・観点別に見ると、知識・技能については、県平均、全国平均とほぼ同じでした。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均をやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	除数が小数である場合に除法において、除数と商の大きさの関係についての理解をみる問題に課題が見られました。	授業において問題解決に向かうにあたり、方法の見通しや答えの見通しを立てて学習を進める必要があります。授業の中で、日常的に量感を養うような発問や確かめをしていく必要があります。
思考・判断・表現	角柱の底面や側面に着目し、面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題や折れ線グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題に課題が見られました。	図形の学習においては、作図や操作活動を取り入れたりICT機器を活用したりして理解の定着を図る必要があります。グラフの傾き、目盛りの幅や大きさなどに着目して、データの傾向や特徴について話し合う活動を取り入れ理解を深める必要があります。

■ 教科に関する調査 中学3年生 国語科

全体の概要

- ・全体的には県平均よりやや下回っており、全国平均より大きく下回っていました。
- ・観点別に見ると、知識・技能については、県平均をやや下回っていましたが全国平均よりも大きく下回っていました。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均よりやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	具体と抽象など情報と情報との関係についての理解、文の成分の順序や照応についての理解、行書の特徴の理解をみる問題で課題が見られました。	キーワードに着目しながら文章の構成について理解を深める学習活動を設定する必要があります。楷書と行書の共通点や相違点について、書写や新出漢字の学習時に確認する必要があります。
思考・判断・表現	目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題や表現の効果を考えて描写するなど自分の考えが伝わる文章に工夫する問題に課題が見られました。	感じたことや想像したことを書く際に、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているかななどを、説明したり確かめたりする学習活動を設定する必要があります。

■ 中学3年生 数学科

全体の概要

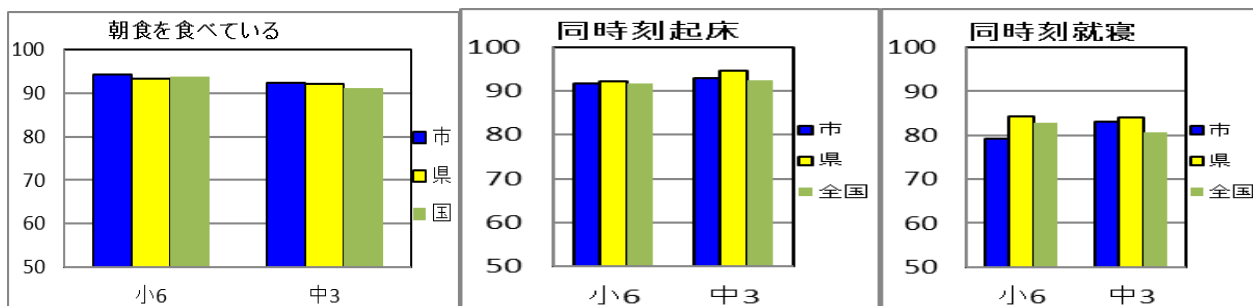
- ・全体的には県平均、全国平均ともに大きく下回っていました。
- ・観点別に見ると、知識・技能については県平均、全国平均を大きく下回っていました。思考・判断・表現については県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	等式を目的に応じて変形する問題、一次関数について式とグラフの特徴を見る問題、簡単な場合について確率を求める問題、複数の集団のデータ分布から四分位範囲を比較する問題等に課題が見られました。	具体的な数で計算することから、成り立つ性質を見出したり見出した性質について文字を用いて表現する方法を検討したりする学習を設定することが必要です。また、ICT機器を活用して視覚化することで理解につなげる工夫も必要です。
思考・判断・表現	統合的発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明する問題に課題が見られました。	証明や判断の根拠をとらえ、証明の方針や統計的な問題解決の方法などを確認したり検討したりする活動を設定する必要があります。

■ 生活習慣等に関する質問紙調査 小城市の概要・考察

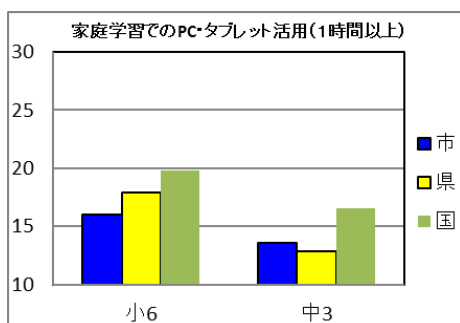
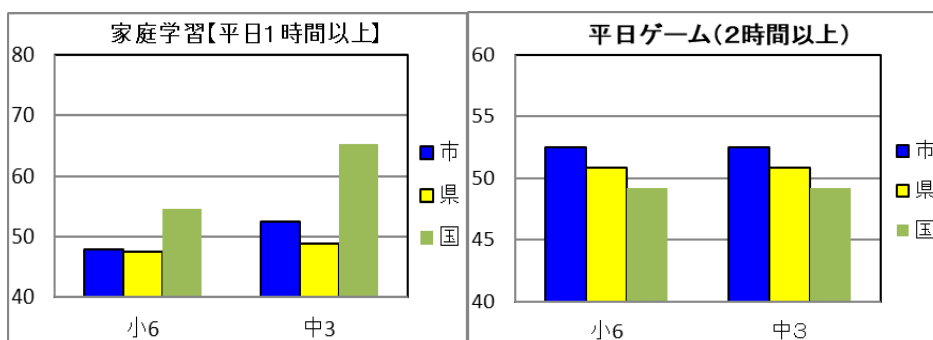
【 基本的な生活習慣について 】

調査の項目	
①	朝食 ※している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
②	同時刻起床 ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
③	同時刻就寝 ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



・「朝食」「同時刻起床」の項目からは、基本的な生活習慣の定着がうかがえます。一方、「同時刻就寝」の項目からは課題も見受けられます。今後も、『早寝・早起き・朝ごはん』を合言葉に、自律的に健康的な生活習慣を維持してほしいと願っています。

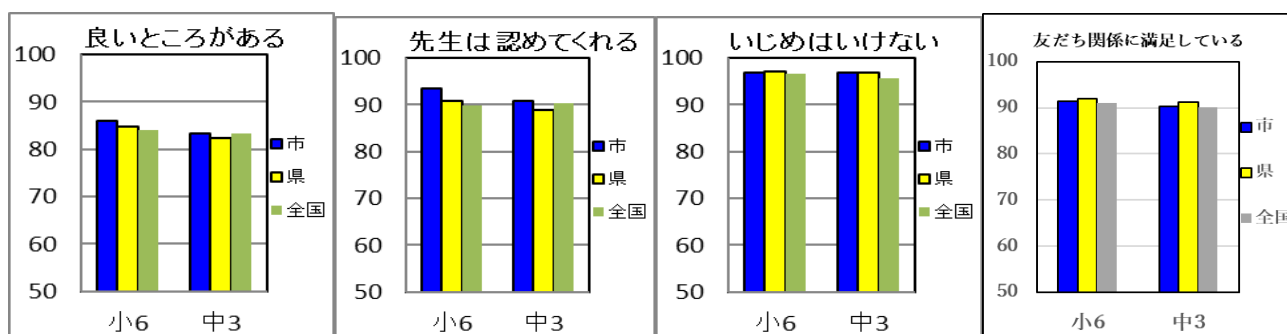
調査の項目	
④	家庭学習 ※平日 1 時間以上家庭学習していると答えた児童生徒の割合
⑤	平日のゲームをする時間 ※2時間以上と答えた児童生徒の割合
⑥	家庭学習でのPC・タブレットの活用 ※平日の家庭学習におけるPC・タブレットの活用時間を1時間以上と答えた児童生徒の割合



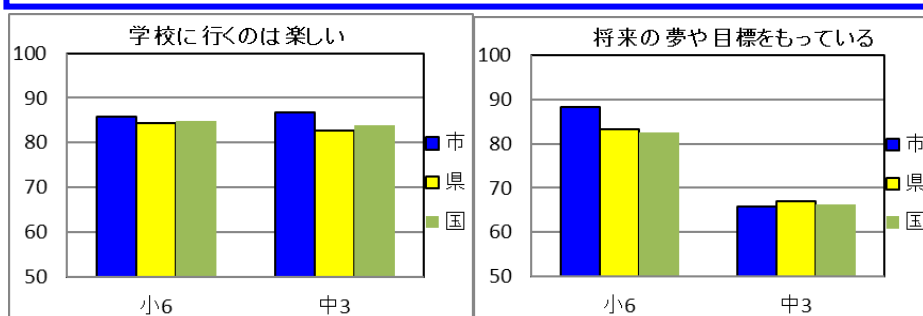
家庭学習に平日 1 時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は約半数で、全国と比較すると割合は低くなっています。また、家庭学習での PC・タブレットの活用についても同様に、活用の割合は低くなっています。一方で、平日にゲームをしている時間は、全国や県と比較して多い割合となっています。今後は、家庭学習への取り組みや ICT 機器の活用等について、効果的な方法を検討していく必要があります。

【 その他の項目について 】

調 査 の 項 目	
⑦	良いところがある ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
⑧	先生認めてくれる ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
⑨	いじめはいけない ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
⑩	友達関係に満足している ※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



「良いところがある」の項目からは、小中ともに約8割の児童生徒が、自分を肯定的に捉えていることがうかがえます。これは、昨年度と同じ質問での回答よりも高い数値となっています。「先生は認めてくれる」の項目については、9割以上の児童生徒が肯定的に回答するなど、それぞれの学校で教師から認められる場面が多かったことが想像できます。さらに、「いじめはいけない」という項目でも、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する意識が高いことがうかがえます。また、「友達関係に満足している」という項目でも9割以上の児童生徒が肯定的に回答していることから、全ての教育活動の中で互いに認め合い賞賛し合える雰囲気が構築されていることや児童生徒間におけるトラブルも丁寧に早期対応し解決できていることの表れだと思えます。今後も、「ほめるから、はじめる。はじまる。」を念頭に置いて、児童生徒の頑張りを称賛しながら、自己肯定感や自己有用感を高めていきたいと思えます。さらに、学習や生活への主体的な態度が高まるよう支援していきたいと思えます。



8割以上の児童生徒が学校に行くのが楽しいと回答しています。今後も“学校で学ぶことが楽しい”“友達と過ごすことが楽しい”と感じる児童生徒を一層増やしていきたいと思えます。また、夢や目標をもつことは、成長につながる原動力です。小学校の児童の9割に近い児童が、夢や目標をもつことができていると回答していますが、中学校の生徒たちの肯定的な回答はやや低くなっています。夢や目標をもつことのできる経験や体験を増やすと同時に、その実現のために、今、自分にできることを考え、行動できるような教育活動を実現していきたいと思えます。